

中学生の「税についての作文」

大川税務署長賞

税金のありがたさ

大木町立大木中学校

三年 植田 愛 琉

「今日の給食は何だった」

我が家では毎日、会話の中で給食の話になる。私の家は両親、私、妹二人、弟の六人家族で両親が教師のため家族みんなが毎日給食を食べている。そのため、給食のメニューが同じ日はとても盛り上がる。

ある日、いつものようにその日の給食について話をしていた。その時に母が、

「他の県では毎日お弁当持参の学校もあるけど、大木町は毎日給食があつてありがたいね」

と言った。私が給食があることへの幸せを改めて感じていると母が続けて言った。

「給食があるだけでなく、小中学生がいる家庭は二人目から給食費が無料なのは本当に助かるね」

私はその言葉を聞いて驚いた。どうして無料になるのだろうか。では、誰が代わりに支払っているのだろうか。

そう疑問に思った私は調べてみることにした。すると、私の住む町では第二子以降を対象に学校給食に係る経費の一部を補助し、当該保護者等の経済的な負担軽減を図るとともに

学校教育の充実に資することを目的とした制度が実施されていることが分かった。つまり、第二子以降である私の妹二人と弟の三人分の給食費が無料なのである。

では、私たちが払っていない分はどこで補われているのだろうかと思ひ、さらに調べてみると、それは私たち町民が払う税金によって補われていることが分かった。このことを知ったときに給食費にも税金が関わっており、税金が私たちの生活を支えてくれている驚きと感謝でいっぱいになった。

また、給食費以外にも大木町ならではの税金の施策があり、私が住んでいる町は特に家庭に寄り添った取り組みをしてくれていると強く感じた。

私はまだ子どもだからと税金に深くは向き合っていないが、しかし、身近な毎日の生活が税金によって成り立っていると分かった今、私は支えられていることを自覚しながら今を大切に過ごしていきたいと思う。あと数年経てば私も様々な税を納める側になる。未来ある子ども達や社会、そして私自身を支え続けてくれる税金を知識と理解をもつて納め、納税の責任を果たすことができている自分に誇りを持つていきたい。

